

1 単元名 私たちから安城市へのアプローチ ～地方自治～ (5/7)

2 単元目標

- ・自分たちが住む地域の政治に関心を持ち、自分たちにできることを意欲的に考え、提案したり、政治参加の方法を考えたりすることができる。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・自分たちが住む地域の特色や課題について調べ、解決のための方法について話し合い、自分の考えを発言、提言などで表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- ・地域の課題について資料を収集・選択し、適切な手段を選択して調査・分析することができる。  
(資料活用の技能)
- ・地方自治の考え方と仕組み、地方財政の仕組みや課題について理解し、その知識を身につけている。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 指導観

(1) 生徒観

本学級は明るく、元気な生徒が多い。1学期は、学級の課題を解決するために、級長中心にみんなが協力し合おうという姿勢も見られるようになった。

しかし、学習の場面になるとなかなか発言ができず、一問一答のような機会であっても積極的に意見を言おうとする生徒は少ない。共通の課題をもってグループ学習をしても、自分の考えを広めることをためらい、終始沈黙してしまう生徒もいる。社会科についても、覚えるのが苦手、難しい言葉が多くて好きになれないと意欲的になれず、学習内容の定着に苦勞する生徒も多い。

そこで、本単元では、生徒に身近な「安城市」を扱い、生徒自身や家庭の人が困っていることや解決してほしいことを課題にして展開していくことにより、今までにはない社会的事象に対する当事者意識や切実感が生まれるのではないかと考えた。生徒が単元を通して、どうしても自分たちの考えを安城市に伝えたいと思うことができれば、学習は主体的になり、グループでの交流が活発になり、より深い学びへとつながるだろうと考える。

安城をより過ごしやすくするために、市へ要望する。生徒は、要望内容や方法を考えて、調査したことをまとめる活動をする中で、政治の仕組みや住民の義務・権利、自分たちが主張しようとしている内容の妥当性の考察力、客観的なものの見方を学ぼうと考える。また、「行政相談委員」とのかかわりを通して、社会参画を目指し、自治意識の基礎を育む姿を期待する。

(2) 単元観

本単元は、身近な「安城市」を取り上げて展開していく。平成29年告示中学校学習指導要領解説「社会編」第2章(2)-ア-(エ)には「地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。」と示されている。解説には、「住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解できるようにすること。地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること(略)」と示されていることから、生徒にとって一番身近である「安城市」を取り上げることがふさわしいと考えた。

そこで、「安城をより過ごしやすく」していこうという単元を貫く課題をもつことによって、主体的に深く学ばせることができると考えた。

第1時は、事前に行ったアンケートをもとに、現在安城市で過ごしていて困っていることを互いに出し合う。生徒自身の生活圏内の具体的な事例を出し合うことで、互いに納得ができた、解決したいという意欲が表れたりすると考える。また、互いに意見を出し合う中で、「すぐに解決できそうなこと」「ちょっと頑張れば解決できそうなこと」「自分たちでは解決できないこと」に分類させる。次に繋がるものとして、「ちょっと頑張れば解決できそうなこと」「自分たちでは解決できないこと」を取り上げていく。

第2時は、第1時に出し合った事柄の解決策を考える。解決策を考える術として、地方自治とはどういったもので、どんな仕組みなのかを学習する。生徒は、地方議会が置かれていること、市には条例が定められていることなどを学び、自分たちが出し合った困っていることは、「市政に関わること」なのだ気づくと考える。そこで、安城市に要望を伝えてみると解決するのではないかと気付かせ、学習を展開する。

第3時から第6時までは要望書作成にあてる。グループで情報を精査しながら、市に受け入れてもらえそうな資料を作成する。要望書作成途中、第5時には、安城市行政相談委員に来てもらい、中間発表という形で生徒の要望書、プレゼンテーションを見てもらう時間を設定する。相談委員には、わかりやすかった部分や足りない資料などを指摘してもらう。そうすることで、よりよい要望書を作成する一助となるだろう。生徒は、どのような情報を要望書に掲載すべきかを考え、「客観的に」「より簡潔に」「わかりやすく」作成するために、事象を多面的・多角的に捉えながら考察・作成していくことだろうと考える。グループ学習で意見し合いながら、必要な要素に気づき、表現する姿を期待する。

#### 4 社会参画を目指すための手立て

##### (1) 各グループで要望を見合う活動の設定

グループでの他者とのかかわりや教室全体での話し合い、他者意見の尊重も「社会参画」の一つであると考え。自分の意見を提案したり、他者意見のよさを認め、改善案を提案したりする中で生徒の社会性は育まれていくと考える。

中間発表で各グループが互いに要望を見合って意見交流することにより、自分たちでは気付かなかった角度からの考えができ、社会性の育成とともに深く学ぶ姿を目指す。

##### (2) 行政相談委員の活用

安城市の行政相談委員（総務省管轄）を活用し、普段の授業では得られない視点で社会的事象を捉えさせる。

生徒の活動の裏で、1学期に行政相談委員は事前に生徒のアンケートを把握し、事態の改善に取り組んでくれている。そのため、生徒の要望が通るものなのかどうかを知っていて、中間報告でのアドバイスも的確なものをもたらえると予想する。また、2学期末には、実際に改善されるものもあるため、生徒にとっては、今までよりも行政が身近なものになり、社会とのかかわりに親しみを感じるのではないかと考える。

## 5 単元構想（7時間完了）

### 単元を貫く課題 『安城をより過ごしやすくしよう』

#### 「安城市で過ごしていて困っていることを出し合おう」①

- ・ごみ箱の設置箇所がなくて、ポイ捨てを見かけても捨てる場所がないね
- ・東別所町の自宅前をバスが通るけれど、狭すぎて困るよ
- ・イノアック前の道が狭くて危険だよ
- ・木が道にはみ出しているところがあり、危険だよ
- ・新安城駅の遮断機はなかなか上がらなくて困るね
- ・歩行者・自転車用歩道の曲がり角が見にくいところがあるよ
- ・自動車マナーが悪いね

#### 「困っていることの解決策を探ろう」②

- ・自分たちだけでどうにもならないものは、市に助けを求めようね
- ・市にも条例などのきまりがあって、議会もあるんだね
- ・予算のことも考えて活動しているんだね。予算は税金からきているんだ
- ・私たちから安城市に要望書を出してみると解決に繋がると思うよ

#### 「要望書を作成しよう」③④

- ・要望するには、「どこで」「何が」「どのように」困っているか書かないといけないね
- ・より明確にするには、地図を載せる必要があるよ
- ・同じ悩みを抱える人はどれくらいいるのだろう。アンケートをとってみよう
- ・だらだらと書いていてもわかりにくくなるから、簡潔に書こう

#### 「要望の中間発表をしよう」⑤（本時）

- ・〇班は、資料に写真があって、歩道がどのくらい狭いかわかりやすかったな。私たちも使ってみるとよさそう。次回までに実際に行き行って検討してみよう
- ・アンケートをとって見たけれど、総数が少ないと資料として説得力が足りないな
- ・街灯の少なさについて発表したけれど、相談委員の方からは、街灯が少ないことでどう困ったのかわかりにくいと言われたので、修正していこう

#### 「要望書を完成させよう」⑥

- ・前回、相談委員の方に、写真があると「どこで」「どのように」困っているかがよりわかりやすいと助言してもらったから載せよう
- ・アンケートの総数が少ないと言ってもらったので、アンケートをとり直してみたよ。やっぱり困っている人は多いみたいだ。必要性が伝わりやすくなったね

#### 「要望をプレゼンテーションしよう」⑦

- ・実際にプレゼンテーションしてみて、市の方々は困っている人とそうでない人、予算の面などいろいろな視点で考え、解決が妥当かどうか結論を出しているんだね。市民全体のことを考えているんだね

6 本時の指導 (5 / 7)

(1) 本時の目標

- ・安城市への要望について、すすんで改善案を考えることができる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・地方自治について学習した内容や話し合った内容を根拠に、要望内容をよりよく精査・考察することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

(2) 指導過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援
<p>要望の中間発表をしよう</p>	
<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>2 3、4グループずつのまとまりでここまで作成した要望のプレゼンテーションをする。</p> <p>3 プレゼンテーションを聞いて、互いの改善点について意見交流をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Kさんのグループは、実際に踏切がどのくらいの時間開かないのか計測していて、困っている根拠がしっかりしているね。どのようにしてほしいかを具体的にするともっとよいね。</li> <li>・Yさんのグループは、ゲオ前の信号をどのようにしてほしいか具体的でわかりやすかった。何が困っているかの根拠がはっきりするとよりよいね。</li> <li>・Dさんのグループは、道幅を広げる土地取得のために、どのくらいお金がかかりそうか考えて要望を作成している。私たちもそんな考え方をしてみよう。</li> </ul> </div> <p>4 自分のグループの改善・修正点を話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートをとって要望の根拠にしているグループがあったから、私たちもとってみよう。</li> <li>・この要望を受けてもらえたら、住民の暮らしがどうなるかまで書いてあると説得力が出るな。</li> </ul> </div> <p>5 ふり返りをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談委員会の方にどのくらいの人困っているかの統計があると要望として伝わりやすいと教えていただいたので取り入れたい。</li> <li>・自分たちだけでなく、他者が理解できるものを作成しないと、安城市をよりよくしていくことにつながらないのだと思った。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の視点からの評価も取り入れるため、行政相談委員会の方に各まとまりに一人ずつ入ってもらい、学習活動3の最後に指摘をしてもらう。</li> <li>・気付いたことや学びを、自分のグループに活用するために、視点を明確に示し、数値化する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「どこで」のことか分かる。</li> <li>② 「何が」困っているのか分かる。</li> <li>③ 「どのように」してほしいか分かる。</li> <li>④ 提案に根拠がある。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的な見方で改善を提案できるようにするため、各項目をどうすれば要望がよくなるのか具体的に話すように声をかける。</li> <li>・学習活動3で得た学びを自分たちのグループで生かして改善していくために、グループで話し合う時間を設定する。</li> <li>・本時の学びを整理できるようにするため、行政相談委員の言葉から新たな視点、他者を認める視点で記述している生徒を意図的に指名し、発表させる。</li> </ul>

(3) 評価

- ・安城市への要望について、すすんで改善案を考えることができたか学習の様子やふり返りの内容から判断する。
- ・地方自治について学習した内容や話し合った内容を根拠に、要望内容をよりよく精査・考察することができたか、学習の様子やふり返りの内容から判断する。